

【協議事項3】 課題の整理

4. 課題の整理

(1) 課題整理の考え方

セントラルパーク構想では、大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用によって好循環を促し、両公園が福岡の個性と文化を物語る場所となるよう、4つの方向性とそれにもとづく整備の方針が定められています。ここでは、自然や歴史、社会、施設、管理運営面からみた現況や利用者の意見を踏まえて、セントラルパーク構想における4つの方向性と整備の方針毎に課題を整理します。

セントラルパーク構想における4つの方向性と整備の方針

構想の方向性	整備の方針
空間をつなぐ方針	①両公園の有機的な連携と一体的な活用
	②諸施設の移転等の推進
	③防災機能向上と環境配慮
時をたどる方針	①都市の歴史の重層性が表現できる史跡の復元整備と公開・活用
	②史跡と調和した樹木類の密度管理
にぎわいをつくる方針	①来園者が集い憩える機能の充実
	②めぐりたくなる様々な演出
みんなで育てる方針	①市民・企業などの参加推進
	②管理運営体制の充実
	③周辺地域と連携したまちづくりの推進

(2)空間をつなぐための課題

①「両公園の有機的な連携と一体的な活用」に向けて

a)両公園間をつなぐ園路の機能強化

大濠公園と舞鶴公園をつなぐ園路が少ないことから、両公園を分かりやすく行き来できる園路の確保が求められます。特にくじら公園周辺は、主要な出入口と隣接する場所として、両公園のつながりを演出し、印象付けるような整備が求められます。



b)両公園全体での回遊動線の確保

利用者が大濠公園の周回園路に集中していることから、安全で魅力的な回遊動線の確保によって、両公園全体でバランスよく利用できるようにすることが求められます。

また、大濠公園の周回園路は歩行者やジョギング、自転車、ペットの散歩など、目的に応じて通行レーンを区分していますが、十分に守られているとは言えません。利用者意見の中でも安全で快適に利用できる環境を求める声が多く寄せられているように、ハード・ソフト含めて誰もが利用しやすい環境整備が求められます。



c)舞鶴公園南側を周回できる主園路の確保

舞鶴公園の南側には現在高低差が大きく未舗装で小幅員の散策路しかありませんが、両公園全体を一体的に周回できる主園路の設置が求められます。

新たな園路の設置にあたっては、文化財を毀損しない構造や、土塁の景観に調和したデザインが求められます。



d)両公園の景観的つながりと見通しの確保

両公園を一体的に活用するためには、舞鶴公園から大濠公園の水面が見えるよう、景観的つながりと見通しの確保に配慮した樹木の整理が求められます。また、樹木の密度が高すぎる箇所については、樹木が健全に生育しやすいよう、樹木の密度管理が求められます。



e)舞鶴公園線を横断する動線の確保

公園利用者の動線が都市計画道路舞鶴公園線で分断されているため、スムーズに行き来するための施設整備などが求められます。

また、舞鶴公園線の沿線においては、街路樹再配置や電線地中化なども含め、公園と道路空間を合わせた再整備により、文化財との景観的な一体感や利用上の一体性へ配慮した空間づくりが求められます。



f)構造物のデザイン等の統一

これまで両公園の整備において様々なデザインの施設が設置され、統一感がなく、分かりにくい状況になっていたため、今後は施設におけるデザインコンセプトを定め、両公園において調和のとれたデザインが求められます。

g)外国人観光客も含めた公園利用案内の充実

来園者の多様な利用目的に対応したリアルタイムの情報発信や、両公園の統一したルールづくりなどが求められます。

また、近年増加している海外からの観光客が公園内を快適に散策できるよう、外国語表記に対応した情報媒体の作成・設置のほか、インターネット接続環境の構築が求められます。

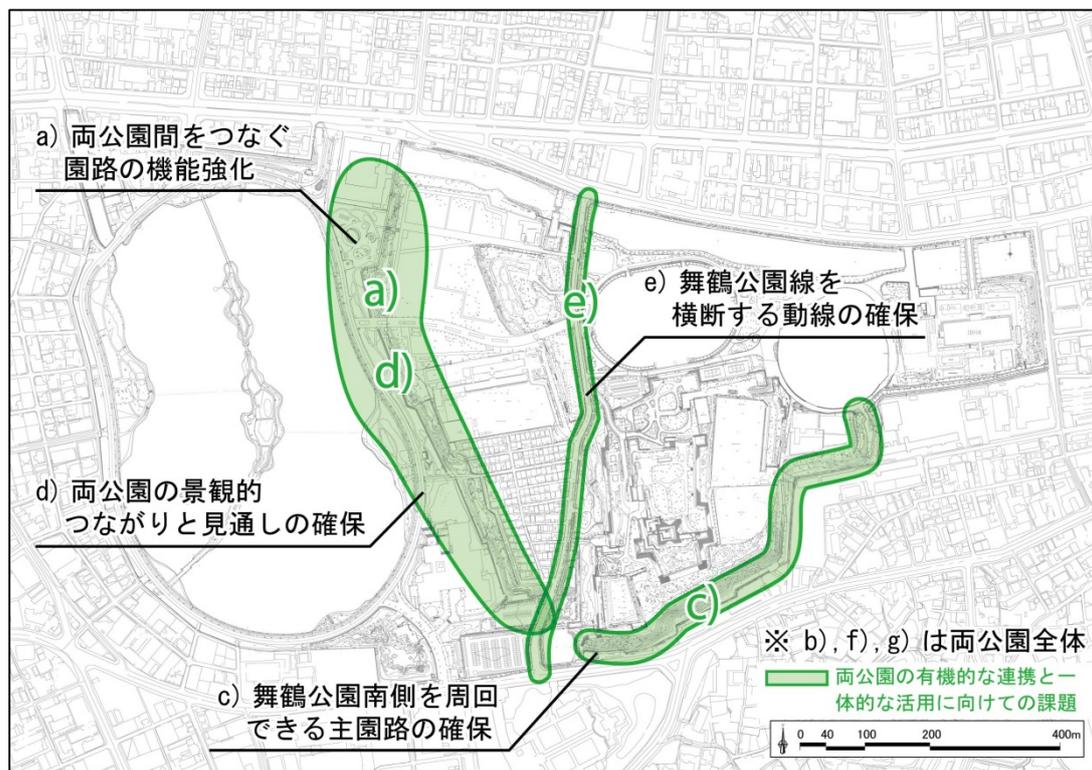


図 両公園の有機的な連携と一体的な活用に向けての課題位置図

② 「 諸施設の移転等の推進 」 に向けて

a)福岡高等裁判所跡地の活用

福岡高等裁判所移転後の跡地は、別途具体的な検討が進められるため、本計画においては、全体の中での位置づけや必要となる防災機能や駐車場機能などの検討が求められます。



b)舞鶴中学校跡及び城内住宅跡地の活用

舞鶴中学校や城内住宅については、移転完了までの暫定活用に加え、移転跡地の整備内容や活用内容の具体化が求められます。



c)運動施設跡地の活用

球技場、野球場、テニスコートなどの史跡指定地内の運動施設については、公園や史跡の整備段階に合わせた移転に向けて、移転跡地の整備内容や活用内容の具体化が求められます。



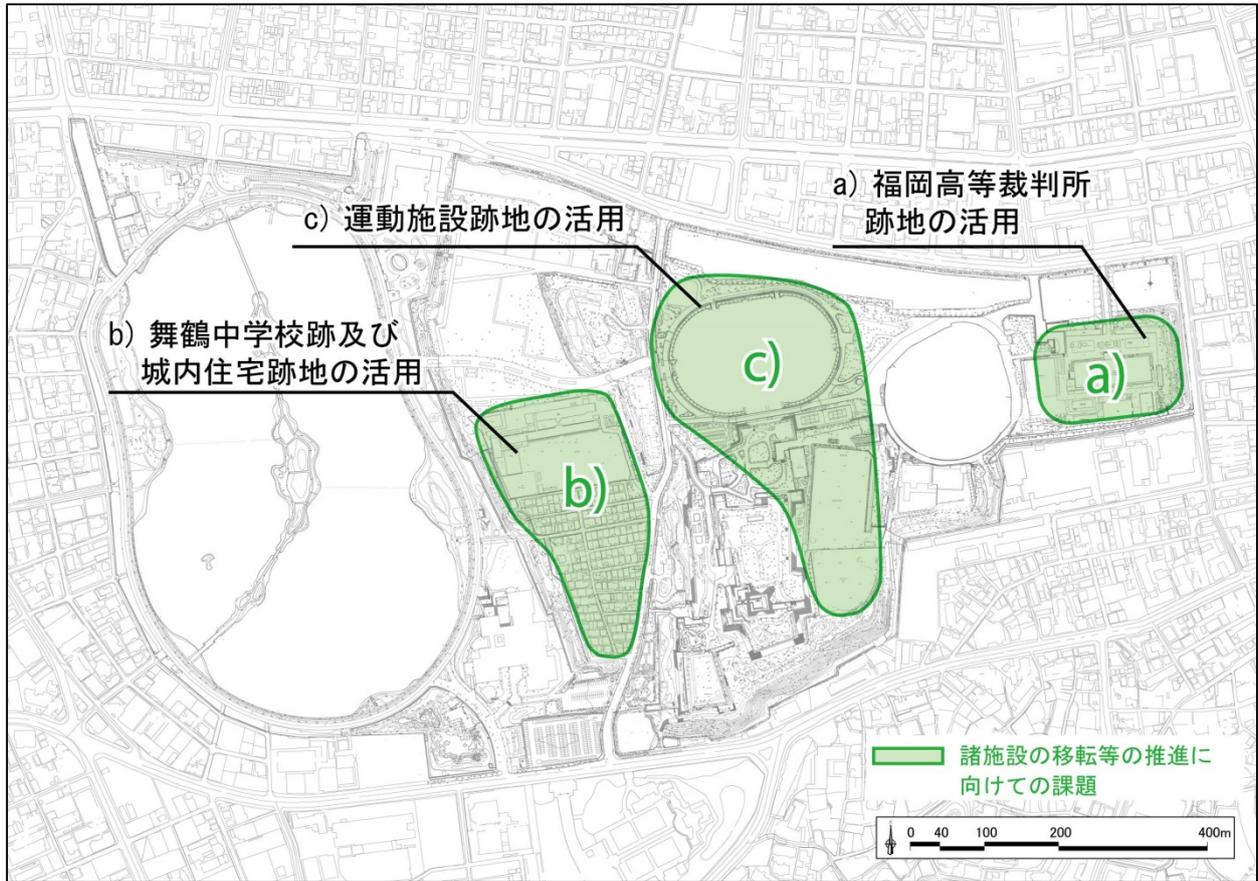


図 諸施設の移転等の推進に向けての課題位置図

③ 「防災機能向上と環境配慮」に向けて

a)防災機能の向上

両公園は広域避難場所となっていることから、災害時の避難場所としての広場整備や、避難経路としての動線確保、給排水・電気・照明設備などの機能確保などにより、防災機能の向上が求められます。

また、公園利用者が夜間でも安全に利用できるや照明計画や、死角をつくりにくい植栽計画など、日常的にも安全・安心に利用できる空間づくりや取組みが求められます。

b)生物の生息環境への配慮

両公園は都心部の中で貴重な自然を有することから、生物の生息環境として重要な役割を担っています。両公園の整備にあたっては、希少生物を含む多様な生物の生育環境への配慮や、生物について学ぶ場としての環境づくりが求められます。また、ミドリガメをはじめとした外来生物の対策による在来種の生態系への影響を減らす取組が求められます。

c)自然とふれあう場の形成

例えば大濠公園の野鳥の森では、野鳥が住みやすい環境の管理が行われています。このように来園者が自然とふれあう環境づくりが求められます。



d)堀の水質の保全と向上

大濠池における水質向上の取組みの継続にあわせて、舞鶴公園においても浄化設備の強化や定期的なモニタリング等による堀や水路の水質の改善などが求められます。

e)安全で親しみやすい水辺環境の確保

大濠公園の周回園路や舞鶴公園の堀沿いを利用する人、水辺のベンチで休憩する人などが、水面を身近に感じ、水に親しんでもらうための施設整備や、水景としての魅力の向上など、より水辺を楽しめるような環境づくりが求められます。



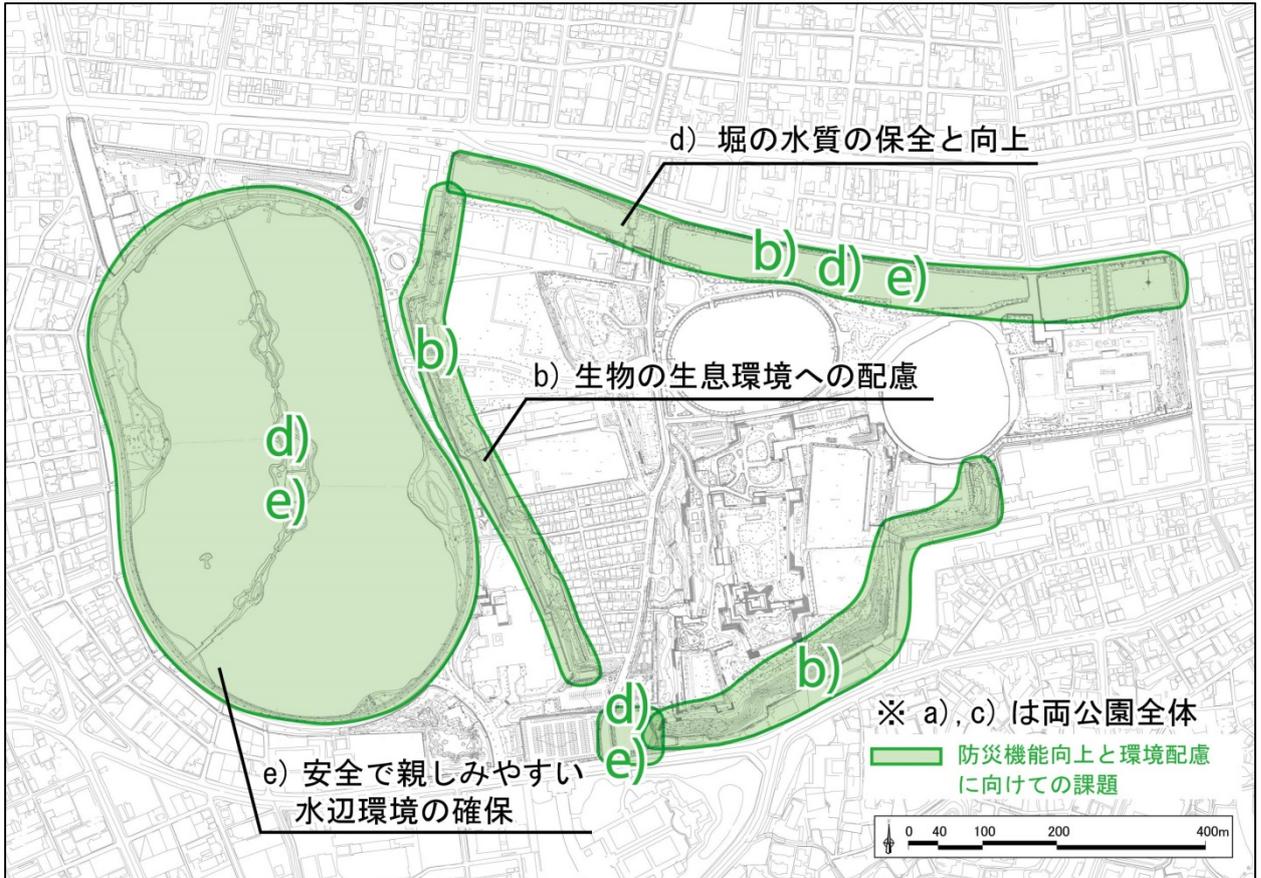


図 防災機能向上と環境配慮に向けての課題位置図

(3)時をたどるための課題

① 「都市の歴史の重層性が表現できる史跡の復元整備と公開・活用」に向けて

a)公園と史跡の両立

公園利用者にとっては便利な動線であってもその踏圧によって土塁が毀損している場所や、緑が石垣の保存に影響を与えている場所などが見られるため、公園と史跡が両立した整備が求められます。



b) 歴史の重層性が表現できる史跡の復元整備

利用者意見の中でも史跡の復元を望む声は多く寄せられています。貴重な歴史の理解を深めるためにも、鴻臚館跡及び福岡城跡の積極的な復元整備が求められます。

また、利用者が古代の史跡鴻臚館跡と近世の史跡福岡城跡、近代の記念物大濠公園という古代から近代につながる福岡の歴史の重層性を感じることができる表現が求められています。特に、鴻臚館跡の全体像を眺めることができる場所や、福岡城跡の長大な石垣を眺めることができる場所が少ないことから、史跡の全体構成を感じることができる視点場の確保が求められます。

② 「史跡と調和した樹木類の密度管理」に向けて

a)樹木類適正管理プログラムの作成

公園内の樹木は都市空間に潤いを持たせている一方で、遺構を遮蔽しているものもあります。樹勢や樹形、景観や生物多様性など緑の機能面と、史跡の保護・活用面からの整理を行ったうえで、樹木を適正に管理するプログラムの作成が求められます。



b)復元整備に合わせた樹木整理や移植

鴻臚館跡や福岡城跡の復元の際には既存樹木の適切な整理や移植が求められます。



c)石垣や櫓への眺めを遮る樹木類の適正な管理

本丸・二ノ丸を中心とした福岡城跡の史跡指定区域内では、石垣や櫓などの見所が最も魅力的に見えるよう、樹木の適正な管理（剪定、伐採）が求められます。

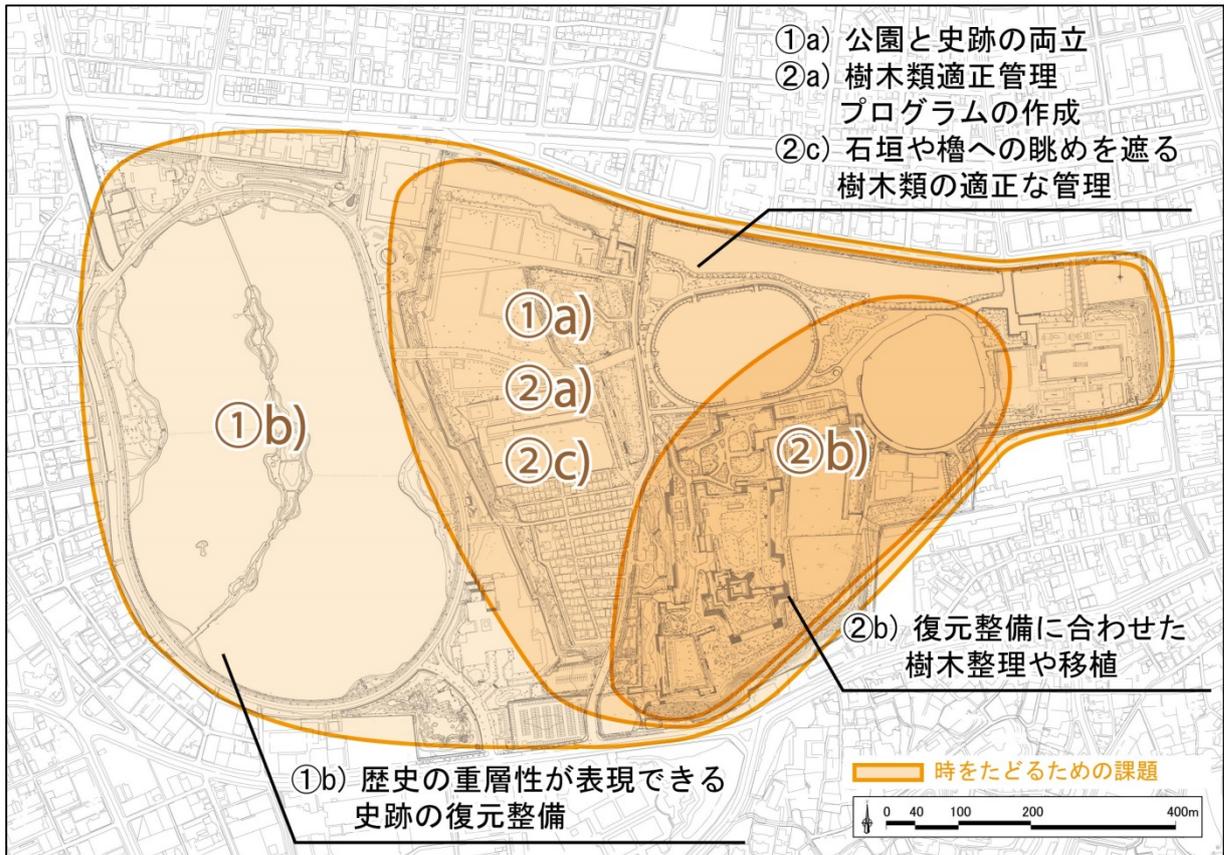


図 時をたどるための課題位置図

(4)にぎわいをつくるための課題

①「来園者が集い憩える機能の充実」に向けて

①-1 来園者が集える機能の充実

a)公共交通機関との連携

公園への来園は地下鉄やバスなどの公共交通機関の利用を基本とするため、今後、より多くの県民・市民に親しまれる公園としていくため、公共交通機関と連携したアクセス環境の改善が求められます。

b)駐車環境の向上

大濠公園の駐車場は利用者が多く、休日はほぼ満車の状態です。今後の公園整備に伴って公園利用者数が増えることを想定したうえで、両公園に自家用車や大型バスで訪れた人々が快適に利用できる駐車環境の整備に加え、両公園間での駐車場運営の連携が求められます。

c)明治通り側入口のわかりやすさの向上

明治通り側から史跡の雰囲気を感じにくく、公園の入口もわかりにくい状況となっています。沿道からも史跡の雰囲気を感じやすく、わかりやすく入りやすい公園の顔としての整備が求められます。



d)国体道路側入口のわかりやすさの向上

両公園の南側は国体道路に接している範囲が狭く、入口がわかりにくくなっています。国体道路の歩行者が出入口の存在に気づきやすいようなエントランス機能の強化が求められます。



e)舞鶴公園東側入口のわかりやすさの向上

舞鶴公園に東側から入ることができる唯一の出入り口であることから、公園の入口としての存在がわかりやすく、明るく、入りやすい空間の整備が求められます。

また、災害時の避難経路を想定した、適切な園路幅員の確保が求められます。

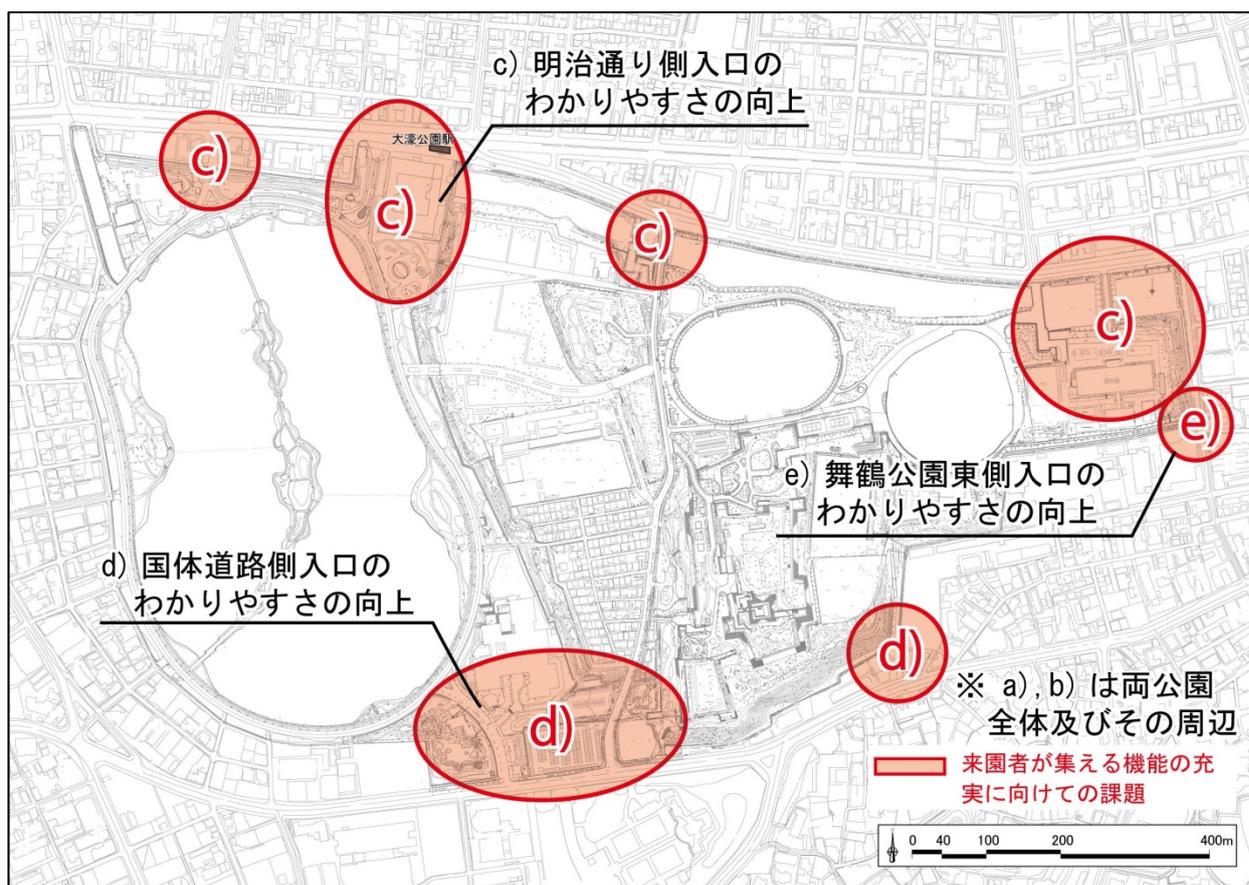


図 来園者が集える機能の充実に向けての課題位置図

①-2 来園者が憩える機能の充実

a) 芸術文化施設の連携

福岡市美術館や能楽堂などの芸術文化施設は、各施設での活動にとどまらず、施設間での連携を強化することで相乗効果を高めることが求められます。



b) 公園空間への芸術文化の雰囲気への広がり

各芸術文化施設内で行われている活動が公園内の色々な場所に広がり、両公園全体が芸術文化の雰囲気に包まれるよう、芸術文化活動が行いやすい空間づくりや仕組みづくりが求められます。

c) 公園施設の更新

公園内の諸施設は、施設の老朽化や史跡の復元整備に合わせて、公園や史跡と調和するものへのリニューアルや再配置が求められます。

d) 便益施設の充実

平成 26 年度に実施されたパブリックコメントでは、飲食店の設置に係る意見が最も多く寄せられました。県民・市民の意見を反映し、より親しまれる公園にしていくため、飲食店をはじめとした便益施設の充実が求められています。

また、トイレなどの諸施設についても適切な規模や位置を検討したうえで、景観に配慮しながら質と量の向上が求められます。



e) ガイダンス施設の充実

現在、両公園の様々な魅力を一体的に伝えることができる施設が無いため、両公園の魅力をわかりやすく伝える施設が求められています。

f) 大規模なイベントを実施できる広場空間の確保

福岡の都心部ではイベントを実施する際に場所や面積の制約があり、大規模なイベントを実施し難い状況にあります。そのため、都心部に近い貴重なオープンスペースである両公園は、大規模なイベントを実施することができる機能をもった広場空間の確保が求められます。

② 「めぐりたくなる様々な演出」に向けて

a) 夜間利用も含めた魅力の向上

歴史的建造物や水際空間、季節の花々等については、夜間でもその魅力を感じることができるよう演出照明等の設置が求められます。



b) 両公園の特性を活かしたイベント・利用プログラムの充実

現在行われている集客イベントをはじめ、歴史、自然環境に関するイベント・利用プログラムなど、両公園の特性を活かしながら、利用者のニーズを的確に捉えた企画の充実が求められます。



c) 両公園や園内便益施設、近隣施設等の連携向上

現在、公園や芸術文化施設、近隣施設において個別で行われているイベント・利用プログラム・情報発信の連携により、公園が一体となったより賑わい溢れるイベント・利用プログラムの実施が求められます。

(5) みんなで育てるための課題

① 「市民・企業などの参加推進」に向けて

a) 地域連携にむけた体制の確保

現在、大濠公園で実施されている、地域や福祉施設等と連携した公園内外の清掃や花壇管理等の取り組みについて、両公園が一体となった定期的な協議の場や、活動の受け入れ体制づくりが求められます。



b) ボランティア活動を育む仕組み・施設の充実

現在のボランティア活動の発展に加え、ボランティア参加者の多様なニーズに合わせた活動テーマの設定、ボランティア同士が交流・連携する仕組みや、これらの活動の効果を上げるための拠点となる施設整備が求められます。

c) 民間活力の導入

公園内におけるボートハウスや売店等の既存の施設との連携向上はもとより、公園の管理・運営を支えるための、企業にとっては社会的イメージの向上や収益獲得につながる、セントラルパーク支援制度の取組みが求められます。

なお、将来に向けては様々な寄付や支援の仕組みづくりが重要となります。

② 「管理運営体制の充実」に向けて

a) 福岡県と福岡市の連携強化

両公園を一体的に活用していくため、県市の関係各課や、両公園の指定管理者などによる連絡体制の強化が求められます。

③ 「 周辺地域と連携したまちづくりの推進 」 に向けて

a) 周辺と連携したまちづくり

西公園や南公園は、大濠公園・舞鶴公園と一体となって中央緑地帯を形成しており、周辺のまちづくりと連携した都市の骨格を形成する緑豊かな街並みの形成が求められます。

また、周辺建物や道路等の公共施設の更新の機会を捉えて、公園や史跡のイメージを感じられる空間づくりが求められます。